

普及活動情勢報告（令和2年10月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

出荷開始まであとわずか！トルコギキョウ現地検討会が開催されました。



J A香美地区トルコギキョウ部会は、10月15日に出荷規格検討会および現地検討会を開催し、延べ22名が参加しました。

農業改良普及課からは、管内の生育状況や病害虫の発生状況に基づき、今後の管理について情報提供しました。生産者からは「情勢はどうかかわからないが、天候に合わせた管理をして、高品質な物を出荷していきたい」などの声がきかれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、生産性の向上を目指して支援していきます。

温室みかん部会山北支部現地研修会



10月13日、J A香美地区温室みかん部会山北支部が現地研修会を開催し、生産者11名が参加しました。

農業改良普及課は、近年の課題である着花量確保とミカンハダニ対策として、結果母枝の養分分析値や気象データの活用、各種気門封鎖剤の積極的な利用や天敵導入等、新たな技術について説明しました。

生産者からは「養分分析はどの枝を取れば良い?」、「気門封鎖剤をすでに3回使った」等の声が聞かれ、新技術に対する関心の高さがみられました。

今後、加温開始後の気門封鎖剤の使用方法や、天敵の低コストな活用法について生産者、J Aと協力して試験をしていく予定です。

ユズ産地力の向上を目指して ～令和2年度物部地域ユズ産地協議会を開催～



9月10日、J A香美地区物部支所で同物部柚子生産部会代表、J A、香美市等の関係機関16名が参加し、ユズ産地協議会を開催しました。

会では、産地構造改革計画に基づき人材・販売・生産の各戦略毎に今年度の活動内容について協議し、農業改良普及課からは、就農パターン別に作成した産地提案書の提案や、経営意向調査の結果などを報告しました。

出席者からは「産地提案書は部会名で募集し、部会員になってもらうほうがいい」、「就農の動機づけには、作業体験や実践研修が欠かせない」など、積極的な意見が出されました。

今後農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、新規就農者の確保、出荷予測精度の向上、集出荷場カイゼンなどを支援します。

新規就農者への支援 ～就農計画実現に向けて～



10月12日、香美市の新規就農者巡回時に聞き取った課題(ニラの周年出荷に向けた作付け体系、難防除病虫害対策、高温や災害によるリスクが高いなど)への対応策をまとめた資料を作成し、現地指導を行いました。

新規就農者からは、「参考になった。露地栽培に簡易ハウスを導入して周年安定生産を目指す」「収入保険は既に参加した」との声が出され、就農計画実現に向け真摯に取り組む姿勢が感じられました。

これからも新規就農者への定期巡回を行い、課題解決へのアドバイスを行っていきます。

J A 高知県香美地区ピーマン部会が現地検討会を開催！



10月5日、香美地区ピーマン部会が香南市で現地検討会を開催し、生産者12名が参加しました。

農業改良普及課は、ピーマンの生育診断の目安として、主枝当たり着果数と日射量の関係を数値やグラフを用いて説明しました。

意見交換の中で、日射量が少ない12月には迷ったら収穫するよう伝えたと、
「1月の高単価に出したいからそうもいかなのよ」といった声があり、生産者個々の考えを把握することもできました。

農業改良普及課では、今後も現地検討会や栽培講習会等により生産者の技術向上を図っていきます。

南国市シシトウ現地検討会を開催！



10月13日、南国市シシトウ4部会合同で、現地検討会を開催し、農家13名が参加しました。今回は香美地区のシシトウ農家3名のほ場を見学しました。

農業改良普及課からは、気象データや平年より発生が多かったハスモンヨトウ対策について、また配布予定のバンカー植物の現状と注意点について説明を行いました。

参加者からは、「クレオメのとげ有り無しでどう違うの」、「ゴマには良くタバコがつく」といった声が聞かれました。また、参加者同士で加温のタイミング、かん水量、仕立て方法などについて意見交換する姿が見られました。

今後も、現地検討会や他地区との交流により、栽培技術の向上に向けて支援していきます。